

建設情報 Iwate

県内総合

ニュースの
お知らせは

〒020-0015 盛岡市本町通3-9-33
本社編集部へ
TEL (019) 623-8201
FAX (019) 623-8204

CCUSが評価項目に

県出納局

県の総合評価 4月1日以降の適用

県出納局は、県営建設工事の総合評価落札方式において、建設キャリアアップシステム(CCUS)の取り組みを評価項目に加える考え。ほか、災害活動や無償奉仕活動の実績についても評価対象の見直しを行う。これら技術提案評価項目Aの改正内容については、25年4月1日以降に入札公告に付する工事からの適用を検討している。

主な改正内容を見ると、技術提案評価項目Aにおける「企業の施工能力」では、工事成績評定の評価対象期間を現行の5年から、企業は「現行基準に加えて、過去5年間に評定点がない場合は過去10

年までの直近評定点を評価」、技術者は「過去10年間の評定点を評価」に見直す。

経営品質の取り組みについては、新分野表彰の対象期間を現行の「前年度まで」を「過去5年間の受賞」に見直すほか、若者雇用促進法に基づく厚労省認定制度である「ユースエール」の認定企業を新規に評価に加える。また、CCUSの取り組みを新規評価項目として「事業者登録の有無」および「当該工事でのCCUS活用の有無」を評価する。経営品質とCCUSの評価の取り組みに関する点数配分については、現在詳細を詰めている。

「配置予定技術者の要件」に関する見直しでは、若手技術者または女性技術者の配置の有無に関する評価で、現代離任を除外し主任(監理)技術者として配置した場合のみを評価対象とする。配置予定技術者の週休2日制への取り組み実績への評価については、25年度を経過措置として評価を継続した上で、26年度には項目を削除する。

「地域精通度等」の要件を見ると、災害活動の実績等では災害協定に基づかない応急対応の実績では、自主パトロールを評価対象外として、やむを得ない場合を除き施設管理者への事前連絡を規定する。無償奉仕活動の実績については、工事箇所を振興局管内に本社を有する場合のみを評価する。

併せて、工事種別に応じた評価の再区分を行い、「土木系」と「土木系以外」に区分。土木系を▽一般土木工事▽ICT活用工事▽災

害復旧工事▽会場・海中工事として、評価項目と配点を設定。土木系以外では「災害活動の実績等」

「無償奉仕活動の実績」「維持修繕業務等の実績」を評価項目の対象外とする。

下権現堂ほか樋門改修設計を公告

県大船渡審査指導監 申請期限は1月15日正午

県沿岸広域振興局大船渡審査指導監は24日付で、簡易総合評価落札方式の「二級河川盛川筋下権現堂地区ほか樋門改修設計業務委託」を公告した。申請期限は25年1月15日正午。入札日時は同月28日の午前9時から午後5時まで。開札は翌29日を予定している。(関連7面)

同業務は、大船渡市猪川町字下権現堂地内など大船渡管内に設置されている樋門(スルースゲート)を、既存施設の改修を最小限とした上で門柱レス(フラップゲート化)などにし、人によるゲート閉鎖の操作ならびに管理の省力化を目的とした改修工事を実施するため、次の2モデルのゲートの設計を行うもの。樋門形式の想定モデル1(権現堂と権現堂の3の全2

基)は、樋門断面積が2平方メートル以上7平方メートル以下で、連数は一連、ゲート形式はスルースゲート。想定モデル2(千刈の1基)は、樋門断面積が2平方メートル未満で連数は一連、ゲート形式はスルースゲートとなっている。

業務内容では、ゲート改修の予備検討や詳細設計、施工計画などを実施する。うち、改修詳細設計では設計条件の確認やゲート工の設計計算と構造詳細図の作成、既設構造物の取付設計を盛り込む。

履行期限は、25年3月21日まで。入札参加資格には、土木関係建設コンサルタントに登録され、河川、砂防および海岸を申請業務としている者で、岩手県内に本店または営業所を有すること、などを付している。

建築申請

▽建築主、住所、建築場所、用途、構造・階数(W=木造 S=鉄骨造 RC=鉄筋コンクリート造)、面積、設計、施工

県庁舎土木センター

▽5月28日

▽(栃東北タチバナ代表取締役社長 岩井昌弘 花巻市柵ノ目6地割114-1 同7地割1-1、1-2、3-16、18-4、19-1、20、22-1、32-1、33、39、59-20、59-22、59-49、83-1、106 事務所(栃東北タチバナ倉庫)増S1 450.00㎡ 高橋建築設計事務所 北日本外装㈱)

▽7月23日

▽合同会社おむすび代表社員木村直樹 花巻市花城町3番3号 同南諏訪町18番6、18番7 寄宿舍(花巻南諏訪共同生活支援施設(日中サービス支援型)) 新W在来軸組工法2 499.28㎡ (株)木村設計A・T 花住ホーム㈱)

購読のお申し込みは
☎019-623-8201 販売局まで

いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える



南部片富士一火山と景観一

岩手大学名誉教授・岩手大学地域防災研究センター客員教授 越谷 信

読者のみなさんもよくご存知の通り、南部片富士とは岩手山のことであり、片富士と呼ばれるのは、東側にだけ、富士山のように長い裾野を引くことによる。火山としての岩手山は、東西約13kmに配列する25以上の火山からなる火山群からなることされる。このうち、東半分を狭義の岩手火山と呼び、これをさらに東西に分け、それぞれ西岩手火山と東岩手火山に区分されている。両者の境界は、ほぼ東経141度の経線付近に位置する。岩手山は約70万年という長い時間をかけて形成されてきたため、複雑な地形を呈する。

一般に、火山の噴火様式にはマグマ噴火、マグマ水蒸気爆発、水蒸気爆発が知られている。マグマ噴火とは、マグマが直接噴出する噴火のことで、岩手山では噴出したマグマが流動して溶岩流となる場合から、噴煙が空中高く噴き上がり、火山体の周囲に多量の火山灰を降下させる爆発的噴火まで様々なタイプが知られている。マグマ水蒸気噴火とは、地下水とマグマが直接、接触し、大量の水蒸気が発生することで起こる大爆発を伴った噴火のことをいう。水蒸気噴火は、地下水などがマグマに直接、接触することなく、間接的に熱せられ、爆発を伴って起こる噴火のことで、火口周辺の火山体を構成する物質などを噴出する。

これらの噴火によって、火山の周辺では、様々な現象が起る。代表的な現象は「降ってくるもの」と「流れてくるもの」の二つに大別することができる。「降ってくるもの」には、火道(マグマの通り道)内での爆発により、大きな岩塊や火山弾が弾道軌道を描いて数kmの範囲に飛んでくる「噴石」と、細かい火山灰が空中高く噴き上げられ、風により飛ばされて空から細かい粒子が降ってくる「降下火山灰」がある。

「流れてくるもの」には、火山噴火に直接関連するものとして「溶岩流」、「火砕流」、「火砕サージ」、噴火後の土砂移動による「土石流」、「融雪型火山泥流」があり、これらとは別に「岩屑(かんせつ)なだれ」という大規模現象がある。

溶岩流は、噴出時に800~1000℃程度の高温のマグマが地表に沿って流下する現象で、一般に流速は遅く、溶岩流に飲み込まれて犠牲になるような災害は起こりにくい。火砕流は、火山灰や溶岩の破片などが数百℃の火山ガスや空気と一体となって高速で流れてくる現象である。火砕流の流走に伴って乱流現象が活発であると、火砕流の先端の本体表面を包むように、気体に富み密度と粘性の低い流れが起る。これを火砕サージといっている。また、マグマ水蒸気噴火などでは、火口から垂直に立ち上がる

噴煙とは別に、火口から環状に横殴りの噴煙が広がる固体物質に乏しい希薄な流れもあり、これはベースサージと呼ばれる。火砕流や火砕サージは、時速100km以上にも及ぶことのある流れであり、発生してから避難することは難しく、きわめて危険である。土石流とは、山の斜面や溪流の底にある土砂や礫が大雨により、一気に流下する現象のことをいう。融雪型火山泥流は、火山体に積もった雪が高温の火砕流などにより融けて、火山灰や噴石などと混じって泥水となり、高速で流下する現象のことをいう。土石流も融雪型火山泥流の時速50kmを超えることがあり、これらもたいへん危険な現象である。

岩屑なだれは、火山体の大規模崩壊により発生する現象である。この現象が詳しく理解されるようになったのは、1980年の米国セントヘレンズ火山の噴火からである。崩壊の2カ月前からマグマの火山体直下への貫入により、火山体表面の変形が進行し、M5.1の地震直後に、火山体が崩壊した。このときの土砂の量は約3km³と見積もられ、発生した岩屑なだれの先端は10分未満で28km離れた地点に達したそうである。

岩手山でも、過去7回の岩屑なだれの発生が知られている。岩手山の火山防災マップでは、これらのうち、岩屑なだれの発生、つまり、火山体の崩壊以外のすべての現象が想定されている。ただ、東西両方の岩手山で同じ現象が想定されているわけではなく、東岩手山では、噴石・降下火山灰・溶岩流・火砕流・火砕サージ・土石流・融雪型火山泥流のすべてが想定されているのに対し、西岩手山では、噴石・降下火山灰・土石流のみが想定されている。この想定は東西岩手山における縄文時代以降の噴火実績の違いに基づいている。

岩手山は縄文時代に岩屑なだれを発生したとされている。そのときに現在の山頂である薬師岳を含む地域が大きく崩壊した。崩壊した土砂は、北東側に流下し、一部は北上川を経て現在の盛岡市街地のあ

る場所に達している。この崩壊により北東側に開いたU字型くぼ地、馬蹄形カルデラが形成された。一方で、縄文時代以降の岩手山の噴火活動は、東岩手火山はマグマ噴火を主体とし、水蒸気噴火ないしはマグマ水蒸気噴火を伴い、西岩手火山は水蒸気噴火で特徴づけられる。東岩手山では、前述の馬蹄形カルデラを埋め立て、マグマ噴火による溶岩や火山灰などの火砕物を堆積させながら、火山体が成長し、薬師岳中央火口丘と言われている現在の東方になだらかな斜面をもつ形状が生み出された。

一方で、西岩手火山の噴火は、大地獄谷中央火口丘の火口でマグマを伴わない水蒸気噴火のみを繰り返しており、噴出量も東岩手火山よりはるかに少ない。そのため遠方からも視認できる大きな火山体を新たに形成することはない。結果として、西岩手火山や東岩手火山の崩壊しなかった部分は、古い火山体、特に標高の高い部分は、浸食を受け、深く刻まれた谷地形が発達し、新期火山体の東側斜面と対照的な形状を呈することになった。この形状を見て、私たちは南部片富士と称しているというわけである。

なお、本稿を作成の主な参考文献は、土井宣夫(2000)「岩手山の地質」滝沢村教育委員会および宇井忠英(1997)「火山噴火と災害」東大出版会である。



岩手大学理工学部から望む岩手山
※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

2024年版 岩手建設年鑑

好評発売中!!

23・24年度 格付を搭載
(検索可能なCD-ROM付)

定価 **22,000円** (税込)

一冊にすべて入っています

業者名簿編 コンサルタント編

団体名簿編 資料編

CD-ROM
検索(地域別・業種別・格付別)
主な業界団体構成員が検索できます
二次加工(プリントアウト)できます

お申し込みは (株)日刊岩手建設工業新聞社

☎(019)623-8201

www.nikkaniwate.co.jpから

いわての未来をともに考えませんかー
岩手地域開発懇話会 会員募集中!!
詳しい活動内容やお問合せは事務局まで
事務局/日刊岩手建設工業新聞社 営業局内
電話 019-623-8201・FAX 019-623-8204

水と地盤のプロ集団
旭 旭ボーリング株式会社
本社 〒024-0056 岩手県北上市鬼柳町都鳥186-1
TEL: 0197-67-3121 FAX: 0197-67-3143
営業所 盛岡・一関・宮古・釜石・大船渡 旭栄 検査

軽車両から大型まで

東亜レンタカー

新車・中古販売もやっています!!

■本社
〒023-0002 岩手県奥州市水沢工業団地1丁目1番地
TEL 0197-24-1161 FAX 0197-24-1169

■岩手ブロック

プラント事業部	0197-24-1161	盛岡北営業所	019-694-3070	北上営業所	0197-67-2131	久慈営業所	0194-66-7700	釜石営業所	0193-55-5381
リースセンター	0197-23-6222	盛岡南営業所	019-637-8200	水沢営業所	0197-23-6222	岩手営業所	0194-32-3030	大船渡営業所	0192-47-4838
サービスセンター	0197-23-5055	花巻営業所	0198-26-2223	千厩営業所	0191-53-3222	宮古営業所	0193-77-3357	高田営業所	0192-47-3572
二戸営業所	0195-27-2255	遠野営業所	0198-62-7273	一関営業所	0191-46-3222	山田営業所	0193-77-4041		

TOA LEASE CORPORATION